

学校だより

第5号

高中訓：心うごかそう～考える・感じる・協働する高中生～
めざす生徒像

- 健康や安全を意識して生活する生徒
- 自分や周りの人のことを考え行動する生徒
- 進んで学習に取り組む生徒

静けき海の心



ご卒業おめでとうございます

三年生の保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。3年前、真新しい学生服やセーラー服を身にまとい、入学してきた子どもたちが、今は見違えるほど立派に成長しました。多くの喜びをもって、ここまで育ててこられたことと思いますが、同時に幾多のご苦労もあられたのではないかと拝察いたします。上の横断幕は、卒業生の第3学年における学年訓です。「吾が心恒に天へ翔け行かんと思す 天翔」とあります。向上心のあるこの学年をよく表していると思います。卒業後もどこまでも駆け上がっていくことを期待したくなる生徒たちでした。幸せな人生を歩んでほしいと願っています。以下に卒業生へのはなむけである式辞の一部を記します。

今、君たちを前にして思うことは、思いやりの気持ちをもったまとまりのある学年、それでいていざというときには爆発的な力を発揮することのできる学年であったなということです。体育大会において真剣に競技した姿、応援合戦の圧倒的なパフォーマンス。何度も押し寄せる感動を共有した渾身の合唱コンクール。企画、進行から出演、演出をリードしまとめ切った高中祭。この3大行事は言うに及ばず、部活動や生徒会、各委員会の活動に至るまで、すべてが1、2年生のよいお手本でありました。特に部活動の部長や生徒会の役員や委員長を担った皆さんは、十分にリーダー性を発揮し、とても頼もしい存在でした。卒業後のステージでもリーダーとして活躍してください。また、生徒お互いの仲が良く、先生たちとも節度を持ちながら親しく交流できる君たちは、何事も安心して任せられ、いつも信頼して見ることができました。

思えば君たちは、1年生で「一歩」2年生で「星」3年生で「天翔」と目指す姿をしっかりと形にして、学年で協力しながら生活してきました。3年生での君たちの活躍は先ほどふれたところですが、私にはどうしても忘れられないシーンがあります。それは、君たちが1年生のときの合唱コンクールです。当時は課題曲と自由曲の2曲を歌う形でした。2曲の練習は大変でしたね。本番までには山あり谷あり、様々な苦労もあったでしょう。そして当日、特に印象に残ったものが、すべてのクラスが歌った課題曲の「大切なもの」です。その曲の後半、

くじけそうな時は 涙をこらえて
あの日 歌っていた歌を思い出す
がんばれ 負けないで そんな声が聞こえてくる
ほんとに 強い気持ち やさしさを教えてくれた
いつか会えたなら ありがとうって言いたい
遠く離れてる君に がんばる ぼくがいると
大切なものに 気づかないぼくがいた
ひとりきりじゃないことを 君が教えてくれた

という歌詞は今思い出しても、当時の君たちの姿と重なり、感慨深いものがあります。私は審査員席で思わず涙を流したことを覚えています。それほど皆さんの歌には胸に迫ってくるものがありました。そしてこの3年間で「本当に大切なもの」に気づくことはできましたか。いつかの全校集会でお話した、星の王子様という本の一節「本当に大切なものは目に見えない」ということを自分なりに感じることはできましたか。ずっと変わらない大切なものもあれば、人生の節目において変化する大切なものもあります。この先悩むことがあったら、今の自分にとって大切なものは何だろうと深く考えてみてください。

深く考える力は人の持つ特別なものです。わからないからと考えることをやめてはいけません。脳が汗をかくほど考えてみましょう。感じる力の元は感性です。豊かな体験、経験を積み重ねて感性を磨き続けてください。人は一人で生きていけません。何だかの関わりをもって生きていくはずですし、力を合わせて何かをやり遂げることはすばらしいことです。それが協働するということです。これらの力が備われば、心がうごく生き方ができるはずです。これが高中訓「心うごかそう～考える 感じる 協働する～」の精神です。この先もこの精神がきっと何かの道を開いてくれると信じています。最後に未来を生きる君たちへ、卒業に際してつくった詩を贈ります。

心の深くに 希望を抱くこと
そう、希望は生きる原動力
自分をどこまでも信じること
いつだって これが推進力
決して 諦めないこと
諦めることは 終わらせること
さあ、新しい一歩を踏み出そう
そしていつの日か、自分の望む 高い山に到達しよう
そこに行かないと見られない 景色を見よう
みなさんの人生に幸多かれ

保護者の皆様、この三年間、高浜中学校および私たちにお寄せいただきましたご厚情に対し、心より感謝申し上げます。